

## 第2回下川町総合計画審議会(産業経済部会)会議録

と き 令和元年10月25日

19:05～20:45

ところ 総合福祉センター「ハピネス」

### 〈森林商工振興課所管施策〉

出席者(委員): 麻生翼部会長、及川泰介副部会長、山崎春日委員、小野直委員、  
山田香織委員、三津橋弘茂委員

出席者(町): 栗原一清課長、平野優憲主幹、高原義輝主幹、斎藤丈寛主査、今裕一主査、  
河合真悟主事、杉山周平主事、遠藤龍信主事

### ▽施策項目「林業・林産業」

町 : 内容説明

委員 : 町の支援がなくなれば赤字になり、林産業は倒れていく状況であるのか。

町 : 町の支援があって、計画的な設備投資が出来ている。事業者の計画が出来たうえで、生産性の向上に努めている。町有林が4,700ヘクタールある中で3,000ヘクタールが人工林である。60年サイクルで50ヘクタールずつ伐採と植樹を繰り返す循環型森林経営を行っている。天然林を活かしていく。

委員 : 町有林会計は、60年間の整備事業で回収できるようになっているのか。

町 : 20～30万円程度の黒字にしかない。経済活動に与えている影響は大きい。30年度では黒字になっているが、今までの投資を考えるとマイナスではある。

委員 : 農業を取り巻く影響も林業と同じである。人口が減っていく中で従事者数も減少している。この数値は妥当なものなのか。また、目標値はあるのか。

町 : 売り上げは右方上がりにはなってきている。農業が大きくなったのは大きな団体が出来たことによる影響だと考えている。

委員 : 法人が出来たから生産額が上がるというのはお門違いである。これから林産業も従事者が減っていく中で、現状を維持していくための施策はあるか。

- 町 : 少ない人数で効率の良い林業経営を考えていく時代が来ていると思っている。
- 委員 : 実際に今の体制で、人がいなくても事業が成り立つのか。高性能林業機械を入れることで同等数でも生産量が上がるのか。
- 町 : 職員の就労環境の整備に価値があると考えている。一概に右肩上がりとは言えない。場合によって人が減るということは考えられる。事業者の判断になる。町としては支援をさせてもらっている。
- 委員 : 機械を入れれば売り上げが伸びるかはわからないが、人手が減る。オリンピックが終わると木材業界が厳しいと言われている。会社の努力しかない。
- 委員 : 天然林施業の中で、天然林は育っていないので数十年後という風に聞こえたが、実際の天然林施業はどうか。
- 町 : 北海道大学などのような、一本一本の健康診断のような管理は、町有林の経営の中で見込んで投資していくところまで判断出来ていない。予算の中で、天然林の間伐はしていく予定である。今年度から、北大で生産された木材を全て下川で受け入れている。木材の活用について追従してきていただけるような事業者と連携を深めていきたい。

### ▽施策項目「有害鳥獣」

- 町 : 内容説明
- 委員 : 被害額の内訳はどのような被害なのか。
- 町 : 水稲、牧草、デントコーン、ビニールハウスなどである。
- 委員 : 牧草の被害額はどう算出しているのか。
- 町 : 猟友会に委託し、決まった面積の中で標準値を決め、目視で確認している。より正確な調査をするために今後は、ドローンなどを利用する。
- 委員 : 林業側の被害はないのか。
- 町 : 申告するほどの大きな被害はない。
- 委員 : ハンターの担い手確保はどこが取り組んでいるのか。
- 町 : 町としては補助金を出している。
- 委員 : 新しいハンターの確保は出来ているのか。
- 町 : ここ最近ではあまり多くない。町の補助制度が開始されてから8名が増加した。

若い人にも参加してもらっている。

委員 : 駆除期間中に取った肉を加工、活用して利益を出すことは可能か。

町 : 可能である。国でも推奨している。

### ▽施策項目「商工業」

町 : 内容説明

委員 : 商工会補助事業の評価調書で、今後、町の支援を縮小していくということか。

町 : 町全体の行革の中で、全体の予算を減らしていく方向になっている。商工会の補助金は、国や道の補助が出ている。

委員 : 商工会補助事業の評価調書で、行政ポイントの普及状況、利用率を教えて欲しい。また、しもりんポイント普及活動の中で、役場主催の講演会など、参加費(有料時)をポイントで集める手法は考えているのか。

町 : 行政ポイントは、開始して間もないし、所管課が違う。しもりんポイントの運用は、商工会側になるので、主催者が使うと言えは使うことは可能である。

委員 : 中小企業振興事業の評価調書で、その他財源とは何か。

町 : 中小企業融資預託金収入や商工組合中央金庫預託金収入である。

### ▽施策項目「観光創造」

町 : 内容説明

委員 : 宿泊施設は五味温泉も入っているのか。

町 : 五味温泉も結いの森も入っている。

委員 : 観光入込客数は、イベントごとの参加人数も入っているのか。

町 : 入っている。

委員 : イベントでは下川町民もカウントされているのか。

町 : 宿泊した人やイベントに参加した人数は、町内外問わずすべてカウントしている。

委員 : P5の施策に対する課題の中で「主体性や自立性が高まっておらず」と書かれているが具体的にはどういったことなのか。

町 : 初めから自主財源を確保するのが難しいため、観光協会の交付金を増額した経

緯がある。将来的には自主財源を確保しつつ、団体自らが裁量を持って活動して欲しかったが、うまくいかなかったため、そのような記述としている。

委員 : 森ジャムに関しては、ここ数年で町の補助を使わず有志で運営している。また、個人でガイドをしたり、ゲストハウスを運営したりと良い部分もあったのではないかと思う。

委員 : 観光振興事業の評価調書で、「道内外や海外とも連携した取組み」とあるが、具体的にはどういうことか。

町 : 町では、海外の方の視察、道内外のツアーなどを対応している。今後、観光協会とも連携した取組みが出来ればと思っている。

委員 : ここ最近イベントが増えてきて、町内で案内出来る場所がたくさんある。小さくても数が増えると良いと思う。

委員 : 町が求める観光はどんなものか。お金を落としていく取組みは町としては必要と考えているのか。また、ツアーやイベントを町側から観光協会に打ち出さないのか。

町 : 観光振興計画を策定するとき、観光協会、宿泊事業者、町内業者を含めてお話しした経緯がある。その中で宿泊施設の上限が決まっているため、大きすぎるイベントがあっても良くないと意見が出た。小さいイベントを多く取り組んでいく方向で進めていきたい。町から観光協会に働きかけはできるが、意思決定は観光協会にある。

#### ▽施策項目「地域資源活用・新産業創造」

町 : 内容説明

委員 : 一の橋バイオビレッジ創造事業で、小規模のビジネス創造は、現実に事業としてやっているのか。

町 : タラの芽の栽培。コンテナ苗の栽培も推進しているところである。

委員 : 特産林産物の関係で、今後は企業的な感覚で進めていくのか。

町 : 現在も企業的な感覚で事業展開している。

委員 : 決算額については、施設カルテの方が見やすいと思う。

町 : 手持ち資料としては作成している。今後施設カルテを添付していきたい。

## ▽施策項目「雇用・労働」

町 : 内容説明

委員 : 指標を労働災害件数などにしてもらえると良い。

委員 : 人材バンクの利用者数はどのくらいか。

町 : 去年は17名の方が採用に至っているところである。

委員 : 施策に対する捉え方を考えるべきではないか。

町 : 求人者において、うまくマッチングできるように機会を与えていきたい。